

2006年11月28日  
日本セラミック株式会社

## 日本セラミック、車載空調制御用の赤外線センサを開発

### - レクサス LS460 用 新空調システムに搭載 -

日本セラミック株式会社(鳥取県鳥取市、社長:谷口義晴)は、9月に発売されたレクサス LS460 に搭載されている新空調システムの一部タイプ用に、新しい赤外線センサを株式会社デンソーと共同で開発しました。

概要は、次の通りです。

- \*世界初の車室内表面温度の分布を非接触で測定できる車載空調制御用の多素子型赤外線センサです。
- \*この赤外線センサが、後席乗員や車室内表面の温度を赤外線熱分布として非接触で検出し、新空調システムに必要な温度情報を提供します。
- \*多素子型のため、マトリックスセンシング(2次元温度分布検出)が可能であり、快適な空調制御に必要な各測温部位をリアルタイムにセンシングしております。

日本セラミックは、今後とも、用途、需要が高まる非接触赤外線センサの新技术の開発～実用化に取り組んで参ります。

(参考画像)



以上